

## 一般質問発言通告書

議席番号 22 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長

☒ 教育長

☐ 監査委員 ☐ 選挙管理委員会委員長

☐ 農業委員会会長 ☐ 固定資産評価審査委員会委員長 ☐ 公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1. 加速する人口減少に対応できる市政運営について

##### (1) 人口減少を前提とした各種計画立案の推進について

- ① 現在総務省は人口減少を止めるのは厳しいとして、人口減少を大前提として地方自治体に計画策定を行うことを推奨している。当市の今後の計画策定は将来人口推計を下回る数値を基本に行う必要があると考えるが、市長の所見を問う。

##### (2) 都市機能集約を基本とするコンパクトシティに対する見解について

- ①人口減少という厳しい社会情勢の中で、行政コストを最適化しつつ住民サービスを守るため「コンパクトシティ」という政策を導入している自治体が増加している。自治体面積が広大な当市にとり、有効な戦略一つと考えるが市長の所見を問う。

##### (3) DX を駆使したスマートシティ構想に基づく市政運営について

- ①スマートシティ構想はデジタル技術の活用で効率的で快適な地域づくりを目指す戦略。国においても人口減少・高齢化・財政難を背景に推奨しているが、市長の所見を問う。
- ②分野横断でデータを接続する「都市 OS(データ連携基盤)」の整備の必要性について認識を問う。

##### (4) 円滑な行政運営を行うための行政組織の活性化について

- ①近年職員の離職率が高い状況が続いている。理由として以前は「職員のモチベーションの低下」も要因の一つと答弁されている。市役所は市民サービスの最後の砦。その職員の意識が低下したままでは市民サービスの質やスピードに直結する重大な問題。職員のモチベーションを上げ、さらに職場を明るくする取り組みを推進すべきだが所見を問う。
- ②行政組織がアクティブに機能するためには、職員の業務量の適正化も重要な要素となるのは明白である。そのための業務棚卸は当然実施されていると考えるが事務の簡素化・効率化はどの程度進んでいるか問う。
- ③職員数が減少傾向の中、その業務処理能力をサポートする仕組みとして自治体 DX の推進が提唱されている。DX 推進でどの程度の業務量をカバーできているか問う。

## 2. 2030 年問題対応のための戦略について

2030 年までに高齢者人口増加、労働者人口大幅減少、空き家増加等複合的な変化が同時に進行。俗に言う「2030 年問題」であるが、今回は 2 点に関して具体的に市長の見解を問う。

### (1) 医療・介護の逼迫に対する認識と対応について

- ① 現在医療・介護人材不足は深刻であり、地域医療の拡充の障壁となっている。今後益々医師・看護師の偏在や介護需要の急増が叫ばれる中、2030 年前後、市の医療・介護人材の供給体制はどの程度の不足が予想されるのか問う。
- ② 医療・福祉における人材確保・育成は喫緊の課題である。医師会との連携も極めて重要であるが、今まで提案している対象範囲の拡大した独自の奨学金制度の導入も有効と考える。市長の考える人材育成・確保戦略の具体的方向性について問う。
- ③ 今後はさらに介護関係者不足が発生し、国は一層在宅へ移行させようとしている。地域福祉の充実のため「地域包括ケアシステム」を強化させる必要がある。市長は 2030 年までにこのシステムの再構築にどう取り組むのか問う。

### (2) 税収の本格減少と行財政改革について

2030 年以降市税が本格減少し、扶助費が上昇する「逆転タイミング」が起こる可能性がある。自主財源である市税額を社会保障関係費である扶助費が上回る現象である。

- ① 令和 6 年度決算では市税－扶助費が約 20 億程度あり逆転まで余裕はあるが、市税は人口減少・税源の偏りにより大幅減の可能性、扶助費は高齢化・介護支出・生活保護・等、上昇圧力が高い。2030 年に向けた市税収入・扶助費の収支見込について問う。
- ② 市長は行財政改革に積極的に取り組む姿勢が所信表明に表れているが、行財政改革プランに「2030 年問題」をどう位置付けているか見解を問う。

## 3. 浜田市における財産である石見神楽振興戦略について

### (1) 石見神楽振興における重点施策について

- ① 本年は日本遺産に認定されている、浜田市の貴重な財産である石見神楽が関西万博という世界が注目する舞台で大成功を収めた記念すべき年となった。あらためて、石見神楽の可能性と「誇り」を感じ「まちづくり」の核としての役割を再認識した。市長が考える「石見神楽」振興のために実施すべき重点施策を問う。

### (2) 「石見神楽」及び石見神楽関連ものづくりに対する早期文化財指定について

- ① 関西万博を契機にさらに世界的にも石見神楽の評価が高まっている。しかしながら、石見神楽自体に対しても、それを支える「ものづくり」に対しても浜田市文化財指定がいまだに行われていないことは残念である。新市長のもと、早急な実現が必要と考えるが市長、教育長の所見をあらためて問う。

### (3) 石見神楽保存・伝承拠点に関する方向性について

- ① 石見神楽伝承施設に関しては、前市長において提案、議論されたところである。三桜酒造跡地をはじめ、複数候補地の提案、計画の提示がなされたが最終的に議論が十分行われず結論を見ていない。現在「石見神楽保存・伝承拠点基本構想検討委員会」で拠点の在り方が議論されている。市長の基本的な方向性に関して問う。